



※出席・司会以外は広報メンバーです
※コロナ関連の情報は5/1ものです

Zoom座談会

『香川同友会第45期活動方針について』

【出席】

林 哲也氏

代表理事

香川県ケアマネジメントセンター(株)
代表取締役
(高松第4支部)

木村 裕士氏

副代表理事

(有)キムテック
代表取締役
(高松第4支部)

小西 啓介氏

副代表理事

(株)ウエストフードプランニング
代表取締役
(中讃第2支部)

【司会】

松原 英樹氏

広報・情報化委員会 編集長

(有)松原製本所
代表取締役
(高松第7支部)

会長職と正副代表理事について

司会 最初の質問ですが、今期から新しく会長職が生まれましたが、香川同友会及び会員にとってどんなメリットがありますか。また、正副代表理事が大きく変わるということですが、その点について具体的にどう変わるかを聞かせていただけますか。

林 同友会の対外的な顔としては、やはり会長がいたほうがとてもわかりやすいわけですね。「同友会には3人の代表理事がいます」というと、「では筆頭代表理事は誰ですか?」ということになりますから、同友会を代表してメッセージを発信してもらおう人が明確になるのは、会員にもわかりやすくなるかと考えています。

正副代表理事については、まず女性の登用です。すぐには無理ですが、1〜2年をかけて何人かの女性会員に入ってもらいたいと思っています。それから各分野、とくに経営指針をつくる会のOBが実績を

あげ、自社の経営を良くしていただきますので、経営指針を創る会の修了生に積極的に正副代表理事会に参加してもらえようと思っています。そして、委員会活動や支部活動で同友会のことを理解し、自社経営と同友会運動が両輪として頑張られている方を4〜5年をかけて参加してもらえようように系統的に努力していきたいと思っています。

司会 その一環として今回、木村さんと小西さんが副代表理事になられたということですね。

林 そうです。

司会 ではここで、木村さんと小西さんに一言いただきます。

木村 これまで組織委員長や支部長を務めさせていただきましたが、今回お話をいただいたときは、こんな自分が大役を受けていいものかどうか、また、それにふさわしい企業になっていけるかどうか、ずいぶん悩みました。ですが、社員や家族に相談すると皆が背中を押してくれたので、小さな会社



林哲也氏

ですが、小さいなりに社員と一緒に頑張っていけるような企業になって、皆さんの手本になれたらいいなという気持ちでお受けしました。

小西 正直なところ、私のようなものが副代表になっていいのだろうか、いまだに自問自答しています。ただ、12年ほど前に支部長をさせてもらったときのことを思い返す

と、当時は同友会の活動が中心の生活で私自身ほんとに変だったのですが、社員が非常に成長しました。

今回は副代表という重責を担うわけですが、幹部社員には経営に役立つことをしっかりと学び直してくるので会社を頼んだぞと伝えました。幹部社員も理解し応援してくれています。

ですから、とても重たい仕事ではありませんが、香川同友会に微力ですが貢献できればと思っています。また、会社もこれを機に新たなステージに進めたらと考えています。

第44期を振り返って

司会 お二人のお話を伺うとキーワードは「社員」

で、会社も社員も成長できる良い機会と受け止めておられるようです。では次に第44期の同友会を振り返っ

て良かった点、悪かった点、第45期に向けての課題について木村さんに伺います。

木村 組織委員長を2年間させてもらったのですが、「ワンデイセミナー」や「未来塾」に参加してもらったことで指針書の作成や、新入会員さんの入会、退会防止につながったように受け止めています。

また、支部ごとに年2回開催のオリエンテーションも少しずつ浸透しており、それが仲間づくりにもつながっていているように思っています。ただ、組織委員会としては他の委員会とのコミュニケーション不足は否めないと私自身感じているので、来期に向けての課題にしています。

それから、いまはコロナの関係で全国大会等への参加が難しいので、今後の交流の形がどうなっていくかも課題の一つです。

小西 この質問に対しては反省ばかりです。自社の話になりますが、約3年ほど前から業績が成長の踊り場に入ってしまった、成長率が鈍化したことに加え、人材の確保が非常に難しくなってきました。こ

れまで経営幹部に任せていた仕事をほぼ全て自分に戻して経営改革を行いました。その為、この1年間は自社経営中心で同友会活動に参加できなかったことが大きな反省点です。

ただ、三豊で開催された経営研究集会に関しては成功裏に終われたように感じています。ここ数年、経営研究集会の副実行委員長として関わってきましたが、地方開催をという実行委員長の宣言を着実に実践してきた中で、高松以外の行政や金融機関の信頼度や同友会の価値が少しずつ浸透してきたと感じています。この流れを今後も持続継続的に進めていきたいと考えているので、引き続き経営研究集会には力を入れていきたいと思っています。

良かった点は、社内的なことですが、副代表をお受けするにあたり、林代表理事に「私は何をしたらいんでしょうか」と相談したところ、即座に「良い会社をつくりなさい」と言われました。良い会社づくりの原点は経営理念と経営指針の成文化ですから、指針を



木村裕士氏

コロナ禍の中での来期の方針について

司会 林さんにお聞きしたいのですが、方針のサブテーマとして「語り合い(愛)のある小さな一流企業を目指す」と謳っていますが、第7ビジョンにある「ちゃんとした企業づくり」と関連していると感じ止めていいのでしょうか。また「語り合い(愛)のある小さな一流企業を目指す」についてもう少しわかりやすく説明していただけますか。

林 実は「ちゃんと

つくり直すことにして、現在私を含め8名で週1回集まって指針書作成に取り組んでいます。

その過程で社員の成長を感じたり、会社への思いなどを知ることができたように思います。

した企業」の身に踏み込んでいったのが「語り合い(愛)のある小さな一流企業を目指す」です。「語り愛」つまり、本気の関わり合いをする人間関係こそ同友会ではないかということとです。「愛情の反対は無関心」といわれますが、お互いに関心をもって関わり合うことは愛情で、その最たる経営者団体が同友会であるというのが

一点です。

もう一つの小さな一流企業とは、社員と家族の豊かな生活を実現し、社員と家族の誇りとなる会社です。これは陸前高田の高田自動車学校(岩手同友会会員)の経営理念にある文言です。どういう企業づくりをすべきか考えているときに、高田自動車学校会長の「当社では小さな一流企業という言葉を出していました」という言葉に出会いました。一流企業というが大企業のイメージがありますが、社員数人の会社でも地域に誇れるようなサービスや製品を提供しているのではあれば、それは紛れもなく一流企業だという誇りを持つてもいいのではということとです。

そういう企業づくりを目指すことで、SDGsが波及している貧困をなくしたり、地域社会を良くし気象変動に具体的な対策を、という取組みにもつながるものだと考えています。

司会 ありがとうございます。続いて第45期の活動方針の中の新型コロナで「一社もつぶさない」について、具体的な取組みを教えてくださいませんか。

林 これは同友会の運動として全国的に呼びかけをしているキーワードですが、いまの局面からみると相当難しい事柄です。夏ぐらいいまで続くと史上最大の危機というか、中小企業存亡の危機の時代といわれており、存在すら危い事態に直面しているという位置づけをしているわけです。

そんな中で「一社もつぶさない」ために何ができるかを考えていくわけですが、同友会は他の経営者団体と違って自主的に考え、みんなが行動を始めた。中でも特徴的なのは、支部を単位に会員同士が店で作ったお弁当を配達し合って協力する「ドローユーイーツ」という助け合い運動です。

このようにお互いさまネットワークの取組みは非常に創造的で、香川同友会発の取組みだろうと思います。そこから派生してオンライン飲み会などもできるのではないかと思います。

もう一つの取組みは、「3密」対策を工夫しながら、「ひとりぼっちの会員を無くす」運動です。その一つが、全会員に向けてハガキで「経営は大丈夫です

か？」と問いかけたものです
が、そのハガキを見た他団体
のある経営者が「うちの団体は
自粛だけで何の声かけもない」
とFacebookに書き込んでいた
そうです。このように、助け合
うという点では底力を発揮し
ていると思います。

こういうことで「一社もつぶ
さない」取組みが本当にできる
かどうかは、これからの我々の
試されどころではないかと
思っています。

司会 確かに「一社もつぶさな
い」というメッセージに、多く
の会員さんが力強いものを感じ
たのではないかと思われま
すが、皆さんはどう受け止めて
おられますか。

小西 我が社も経営危機に直
面しています。売上は前年を大
きく下回っており全く想定外
のこの急場をどう乗り越える
のかを真剣に考えている状況
です。同時にBCP（事業継続
計画）の必要性を感じていま
す。

しかし、これは個人的なこと
です。今後は副代表として何が
できるのかを真剣に考えると
同時に、情報を集め、会員の皆
さんと連携して知恵を絞り、工

夫しながら会員企業の事業継
続が叶うよう尽くしていきたい
というのが現時点での私の
想いです。

木村 我が社は建設業ですが、
いまのところはお客様が離れ
ていくようなことはありません
ですが、ただ徐々に影響は出てき
ています。おそらく多かれ少な
かれどんな業種も同じはずで
すし、とくに飲食関係はほとん
どのところがこの状況に困窮
しているのです、少しでも売上に
協力できればと思います。何よ
りも声かけが大事だと思ってい
るので、それが私の仕事になっ
ていくと受けとめています。

林 「一社もつぶさない」とい
うのは、いまのこの時期には非
常に大切なキーワードです。同
友会では、お互いさまネット
ワークで「ドゥユーイーツ」と
かをやっています。ただし同
友会は慈善団体ではなく、自社
の経営をしっかり考える団体
です。ですから、お互いに励ま
し合う意味での声かけや協力
だと思っています。

自社の経営をしっかりと考え
る経営姿勢や経営計画を考え
ることが大事です。緊急時にな
るとどうしても休業など撤退

の方向に判断しがちですが、お
客様とのつながりや、商売その
ものを継続することを考える
運動が必要だと私は思ってい
ます。

つまり、飲食であれば中核的
な商品の良さや従来のお客様
に慣れ親しんでもらったもの
がありますから、それを違う形
で生かす方法もあるように思
います。

小西 飲食業ブラ
ス食品製造業とい
う考え方で収益獲
得のアイデアを出
すことも一つの方
法かと思っています。

林 そうですね。
そういうふうには自
社を変革していく
チャンスかもしれ
ないと、いまのこ
の状況を受けとめ、
パニクにならず
に取り組んでいく
ことが非常に大事
だろうと思います。
そういう意味でも

自社の経営をしっ
かり考え、できれ
ば経営指針書の見
直しや経営計画、

ビジネスモデルを改革してい
こうという視点で、経営を新た
な段階で見直すチャンスだと
積極的に考えていく必要があ
るかと思われれます。
今回の危機を乗り越えてい
くと、終息後には新しい事業が
生まれる可能性があると考え、
この危機を乗り越えていくこ
とが同友会的なあり方ではな
いかと受けとめます。厳しいけ

小西啓介氏



れども何かできるはずだ。会社をこの時期に変えていくぞという気概を持ってほしいと思います。それが同友会が大事にしている「どんなに環境が厳しくても経営に対する責任を持つのが経営者だ」ということに気付いてもらえればという思いが強くなっています。

同友会に求めていることは

司会 ところで皆さんは一般の会員さんは同友会に何を求めていると思いますか。

木村 自分の会社の問題点や経営課題はなかなか見えてこないものなので、それがわかるような仕組みづくりが、自社発展につながり、いろんな気付きがあるように思います。これは、私自身が同友会活動で得た体験ですが、他の会員さんも同じではないかと思っています。

小西 香川同友会には約1600社が所属しているのですが、それと同数の経営課題と同友会に対する要求があると思います。同友会は経営者団体ですから、根底には事業発展と自身も含めた全社員の成長及び幸福度向上だと思っています。更に地域社会への貢献度を高め、地

域から必要とされる企業になるための学びを同友会で学びたいと私は思っています。

林 皆さんもご存じだと思えますが、中讃第2支部では「車座元気会」、高松第7支部では「商繁会」「ミニ勉強会」「会員訪問」などの「小グループ活動」を行っています。これは、会員同士が経営課題に深く関わる内容を取り上げることにつながり、より強くなり、会員の関わりが広がっていく大切なことではないかと思っています。

それから、昨年の仲間づくりの取組みも、単に数稼ぎではなく、経営課題を軸にして関わり合い、巻き込み合っていくという形でしたが、まさにそれだと思います。

司会 最後に今期にかける決意を述べていただきたいと思っています。

木村 同友会活動の中で、自社を発展させていくことと、同時に副代表として同友会全体のことも考えていかなければなりません。ただそのためには自分自身が経営者として成長していかなければなりません。未熟者ですが、皆さんと一緒に関わっていききたいと思っています

す。

小西 簡潔にまとめると、副代表という重責を自覚し全うすることです。具体的には第1に、今一度同友会を学び直すこと。第2に同友会と積極的に関わること。第3に会員さんとの交流を深める事。第4にコロナショックという大ピンチをチャンスと捉え前向きに活動し、香川同友会に新たな価値観や仕組みを生み出すことです。その結果、入会して良かったと感じる会員さんを増やしていければと思います。

林 まず希望を持った生き方をしたいと思っています。「明けない夜はない」ので、コロナ問題が解決した暁には、新しい次元での「小さな一流企業」になつていくはずですし、この難局から必ず脱皮できるという希望を持っています。

司会 この記事を読まれた会



松原英樹氏

員さんはきっと元気をもらい、明るい未来が見えるのではと私は思います。コロナに負けないう皆さん頑張ってください。本日はどうもありがとうございました。